

令和6年第6回小林市議会定例会（12月議会）一般質問通告書（通告者13名）

11月28日（木）

発言順番 1

金松 勲

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 公共施設のトイレ整備について	市内の小・中学校のトイレは洋式化が進んでおり、児童・生徒は安心して使用していますが、中には洋式トイレが少なく、和式トイレに慣れてない児童・生徒がトイレを我慢している状況があると聞いています。さらに、保護者からトイレの洋式化を望む声も多いです。また、学校施設をはじめとした公共施設は、避難所として活用されるため洋式化は必要だと考えます。これらについて、公共施設のトイレの整備について市の見解を伺います。	市長 教育長
質問事項 2 須木運動広場の整備について	須木運動広場は、幾度となく整備が実施されてきました。現在は、老朽化が進んでおり、バックネット支柱のさび・腐敗が見受けられます。また、運動広場内には凸凹が多く見られ、使用者のけがや事故につながりかねません。さらに、使用団体からは、「自主整備を行うのが大変。」と聞きます。運動広場内の整備や修繕が必要と考えますが、市の見解を伺います。	市長 教育長
質問事項 3 日本のひなた宮崎国スポ・障スポの開催に向けた準備について	令和9年10月に日本のひなた宮崎国スポ・障スポが開催されます。市民一丸となり小林市を全国にアピールできる絶好のチャンスと考えています。しかし、開催にあたっては、各競技施設の準備、ボランティアの協力、宿泊先、選手や関係者の会場までの移動といった課題が多くあると考えます。これらについて、現時点での準備状況や対策を伺います。	市長 教育長

令和6年第6回小林市議会定例会（12月議会）一般質問通告書（通告者13名）

11月28日（木） 発言順番 2 舞田 重治 議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 農業振興の在り方について	農業で一番問題なのは、物価上昇に農産物価格が追いつかないことであります。その背景には日本の農業における構造上の問題があります。また、農業者が高齢を理由に一斉に廃業する大離農時代に突入しました。 本市の農業振興の取組の現状と効果、今後の対策について伺います。	市長
（１）認定農業者の認定について	認定農業者の認定状況と今後の認定農業者の育成について伺います。	市長
（２）地域計画について	地域計画は、地域農業の10年後のあり方について、担い手への農地の集積・集約化の方針など、農業者や地域の考えをまとめるものであり、令和7年3月末までに策定するものであるが、計画の進捗状況と課題について伺います。	市長

令和6年第6回小林市議会定例会（12月議会）一般質問通告書（通告者13名）

11月28日（木）

発言順番 3

野田 利典

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 運動施設の環境整備について	健康づくりの一環として、幅広い年齢層の市民が運動のために各施設を利用していると思うが、各施設において利用者の安心安全のためにどのような環境整備を行っているか伺う。	市長 教育長
（１）各施設の管理状況について	八幡原市民総合センターの多目的グラウンドの利用増加に伴い、利用者からトイレが駐車場側にあるため、グラウンドの東側にトイレを設置してほしいとの要望があるが、設置の考えはないか伺う。また、ベンチがないため、利用者は座る場所がなく不便であると考えているが、設置する考えがあるか伺う。その他、小林市市民体育館、三ヶ野山運動広場、あすなろ公園運動広場の管理状況について伺う。	
質問事項 2 市民の交通手段について	「買い物や病院通院のため、地域によっては市内中心部への移動が不便だ。」という意見があるが、この現状を市としてどのように受け止めているのか伺う。	市長
（１）コミュニティバスと福祉バスについて	コミュニティバスや福祉バスの運営状況や乗車率について伺う。また、それらの課題に対する取組について伺う。	
（２）ライドシェアについて	全国的に、タクシーの運転手不足が続いており、今後さらに厳しい状況が予想される。新たな手段の一つとして、一般ドライバーが、スマートフォンアプリ等を使用し、自家用車で他人を有償で運送するサービスであるライドシェアの取組が広がっている。令和6年3月議会においてライドシェアについての考えを伺ったが、「国の動向を注視していく。」との答弁があった。それを踏まえ、その後、国や県からの情報や市としての調査研究の進展について伺う。	

質問事項 3 のじりこぴあの現状について	市の中でも有数の観光入込客数が見込める観光施設であるが、施設の老朽化が進んでいる。遊具の一部は解体や新設の計画があるが、全体的な更新計画について伺う。 また、歴史民俗資料館においては、昔の農機具の展示や地域の歴史文化を知る施設であるが、その機能を十分に果たしているか伺う。 遊歩道は市内外の訪問者が「ウォーキングするのに素晴らしい環境であるが草刈りなどが不十分であり、残念に思う。」との意見も聞いていることから、管理状況について伺う。また、野尻湖面の上にアオモが広がっており、景観が損なわれていると感じるが、何らかの対策について県と協議されているのか伺う。	市長
------------------------------------	---	-----------

令和6年第6回小林市議会定例会（12月議会）一般質問通告書（通告者13名）

11月28日（木）

発言順番 4

高野 良文

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 買い物困難地域の解消について	本市の高齢化率が40%近くになり、運転免許証の返納等で移動手段の確保が課題となっています。一方、地元スーパーや小売店の閉店・撤退が相次いでおり、市内の中心地や堤地区に大型店舗が集中している現状があります。このような状況の中で、まさに買い物困難地域が増加していると思いますが、市としては、現状をどう認識されているか伺います。	市長
質問事項 2 地域おこし協力隊の現状と未来について	平成20年度に総務省では「集落支援員」制度が、農林水産省では「田舎で働き隊」事業がスタートしています。更に平成21年度からは「地域おこし協力隊」制度が開始されました。本市の地域おこし協力隊員の方々も日々活躍されておられると思いますが、それらの活動内容を市民や学校に向けて、より一層PRする事も重要と考えます。そこで、本市の「地域おこし協力隊」の活動内容や今後の展開について伺います。	市長 教育長
質問事項 3 出会い支援について	我が国の婚姻数は減少の一途をたどっており、近年はコロナ禍も相まってその減少は顕著となっています。本市における婚姻数も10年間で半減している状況にあり、出生数の減少にも影響しているものと思われます。本市では、出会いの機会を創出するため、近隣の自治体や各種団体と連携した出会い支援に取り組んでおりますが、これまでの実績と今後の展開について伺います。	市長

令和6年第6回小林市議会定例会（12月議会）一般質問通告書（通告者13名）

11月29日（金） 発言順番 5 小川 真 議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項1 合併の検証について	旧3市町村が合併して来年で15年を迎える。 小林市民があらためて一緒になって前を向ける ように確認をする。	市長
（1）合併の経緯とその後について	須木村、野尻町との合併へ至った背景を改めて 確認する。また、合併特例債の活用などによる財 政運営、建設投資や経済投資など、その成果を伺 う。	
（2）国と地方の関係について	地方分権一括法の施行から24年が経ち、国と 地方の立場は、横の関係、対等協力関係になった とされるが、令和6年現在、小林市の現場として は、どのように変化したのか伺う。	
質問事項2 経済活性化事業について	本市の経済の活性化の可能性を探る。	市長
（1）経済活性化事業の現状について	市民が豊かになるような経済政策や経済の活 性化に繋がる民間との連携事業など、効果が出て いる有力な事業について投資金額を含め問う。	
（2）食を活用した経済活性化について	本市の魅力ある産品を広く認知し、購入機会を 増やす必要があると考える。例えば、小林市バー ベキューの日、デザート・スイーツの日等のキャ ンペーンを設けることについて、市の考えを伺 う。	
質問事項3 環境エネルギーについて	バイオマスセンター内のメタンガスエネルギー 施設の再稼働について、家畜排せつ物を活用し たエネルギー施策に取り組めるか伺う。	市長
質問事項4 市民のごみ分別について	ごみ分別が困難な市民の声に寄り添う政策を 考える。	市長

（１）介護者、介護帰省者のごみ分別について	介護者、帰省して介護を支援される方などはごみ分別が大変だと聞く。民間廃棄物処理業者であれば袋を購入し、分別せずに出せるが事業所登録が必要とされる。規制を緩和できないか伺う。	
（２）生ごみリサイクルボックスについて	ごみ集積場の生ごみボックスは、季節によっては臭いなどで開けられない人もいると聞く。改善策はないか伺う。	
質問事項５ 自治体間格差について	他自治体の有利な政策により自治体間で差が出ていると感じる。その差を埋められるのか、またそのような影響で実際に住民が転出しているのか伺う。	市長
（１）子育て支援について	２歳以下の子育て世代の声を伝え、保育料の減額等ができるか伺う。	
（２）自治体間の人口流出について	自治体間格差が人々の流出に繋がっているか伺う。	
質問事項６ 所得の申告について	103万円の壁が話題になっているが、所得の申告に係る手続や市民への周知について伺う。	市長 教育長
（１）社会保険の窓口について	家族の扶養から外れた場合は、窓口はどこで、どのような手続を行う必要があるのか分からない市民も多いと感じるが、その手続について伺う。	
（２）確定申告の啓発について	確定申告の方法について、行政のサポート体制、学校での教育について伺う。	
質問事項７ 文化財について	本市にある天岩戸の洞の文化財としての認識を問う。	市長 教育長
（１）天岩戸の洞について	現在は台風の影響で立入りが困難になっているが、本市の文化財としての認識を確認し、整備を行えるのか伺う。	

令和6年第6回小林市議会定例会（12月議会）一般質問通告書（通告者13名）

11月29日（金）

発言順番 6

橋本 律子

議員

質問事項	質問要旨	質問の相手
質問事項 1 補聴器購入助成制度の新設を求めます	全国の補聴器購入助成制度を実施する自治体は、2024年1月現在では238自治体でしたが、それから今年の9月までにさらに114自治体が助成を始めています。 加齢性難聴のために人との対話が難しいからと家に閉じこもってしまったとしたら、高齢者の生きがいや楽しみも失われ、市の活性化も低下してしまうのではないかと思います。 私は、昨年6月議会から、毎回「補聴器購入助成制度の新設」を求める一般質問を続けていますが、今回も同制度の新設を求めます。	市長
（1）県内外の状況から	宮崎県社会保障推進協議会の「2024市町村アンケート報告」によると、高原町と美郷町が、補聴器購入助成制度を「検討中」と回答しています。 現在、県内で同制度を実施しているのは、三股町・新富町・諸塚村です。市長は「小さな自治体はやりやすい」と言われますが、新潟県では30自治体の全てで実施しています。 以前、市長は「検討させてください。」と答弁されました。その後、検討は進んでいるのか伺います。	
（2）購入助成に踏み出せない理由は財源問題だけか	令和5年度末の本市の財政調整基金残高は約18億円で、目標である令和7年度末基金残高15億円以上を達成しています。補聴器助成にかかる費用は（補助する額にもよりますが）、年額約300万円前後と試算されます。財源は無くはないのです。 全国の市町村が続々と実施している今、財源問題以外で、小林市がそれに踏み出せない理由は何かを伺います。	

(3) 補聴器を付けることで、「聞こえ」を取り戻してほしい	耳が遠い人は、話を通じないと対話をあきらめてしまい、家に閉じこもってしまいます。認知症の一番の要因は難聴だと言われています。そんな方々に、補聴器を付けて再び聞こえる世界に戻ってほしい。しかし、補聴器は大変高額で、非課税世帯や年金生活者でなくても、おいそれとは手が出ません。 購入のための市の助成を切に求めます。	
質問事項2 教職員の「働き方改革」について	学校における「働き方改革」は、平成31年(2019年)1月の中央教育審議会の答申のまとめをもとに、文部科学省が推進しているものです。 それから5年が経過しますが、宮崎県内の学校現場も想像をはるかに超えた厳しい職場環境となり、不満が渦巻いている現状です。 本市では教職員の「働き方改革」をどう進めているのか、実態を踏まえてどう改善すべきなのか、教育長の認識を伺います。	市長 教育長
(1) 県教委の資料から	県教委が示した過去7年間の定年前の退職者数と、採用後5年以内に退職した教職員の数を見ると、年々増加の一途をたどっています。精神疾患を含む病休者も10年前には94名だったのが、昨年度は131名に増加しています。この数字を見ると、教職員を希望する若者がためらいを感じるのも否めません。 この根本的な原因はどこにあると見るかを伺います。	
(2) 82.6%の教職員は、仕事に「やりがい」を感じている	「子どもの権利条約宮崎の会」が県内の教職員に行ったアンケートによると「あなたは現在、仕事に『やりがい』や『生きがい』を感じていますか。」という設問に対して、82.6%の先生方が「感じている」と答えています。 やりがいを感じているのに早期退職や病休者がこんなにも増えています。記述欄に書かれた教職員の声を紹介し、その苦しさの原因をどう聴き取られるかを伺います。	

(3) アンケートから分かること	「現在の働き方で負担に感じていることは？」という問いに、選択肢の中から5つ選ぶという設問の第1位は、「業務の内容が多く、勤務時間内に終わらないこと。」でした。 記述欄には「管理職は5時20分に職員を帰らせることだけに力を注いでいる。」とあります。仕事が多いのに早く帰れとは、土台無理な話です。小林市でもこのような報告と改善を現場に求めているかを伺います。
(4) これからの小林の教育を担う教職員のために	先日、細野中学校の研究公開に参加させていただきましたが、全職員が校長先生を信頼し、チームとして生き生きと仕事をされている様子が見て取れました。 文部科学省が推進する働き方改革にとらわれない学校づくりの考えについて伺います。

令和6年第6回小林市議会定例会（12月議会）一般質問通告書（通告者13名）

11月29日（金）

発言順番 7

竹内 龍一郎

議員

質問事項	質問要旨	質問の相手
質問事項1 人事院勧告による給与改定について	景気回復の実感のないまま、物価高騰が続いています。去る8月に人事院勧告がなされ、民間と公務員の月例給の格差は11,183円であり、率にして2.76%の引上げの勧告がなされたことについて本市の考え方を伺います。	市長
（1）職員の給与について	正規職員及び会計年度任用職員の給与は、今回の勧告どおりの引上げを実施されるのか伺います。また、令和5年12月27日付総務省通知「会計年度任用職員制度の適正な運用等について」の通知の中で、会計年度任用職員の給与改定は遡及改定も含めて正規職員に準じて対応するとありますが、同様の対応を行うのか伺います。また、県内で会計年度任用職員の遡及改定を実施している自治体を把握しているのか伺います。	
（2）職員の旅費について	物価高騰に伴い宿泊代は値上りしています。現行規定の宿泊料と乖離が見受けられ、改定が必要ではないかと感じています。本市の直近の改定時期と今後改定する考えはないか伺います。	
（3）職員の諸手当について	ガソリン代が高騰しており、通勤手当の改定が必要と考えますが、その検討をされているか伺います。また、災害応急作業等手当の支給について本市の考えを伺います。	
質問事項2 新年度に向けた健幸のまちづくり拠点施設の体制づくりについて	令和8年3月の開設に向けた健幸のまちづくり拠点施設（以下、拠点施設という。）の整備状況と今後の方針・課題を伺います。	市長 教育長
（1）拠点施設に係るWG（ワーキンググループ）の進捗状況について	拠点施設で勤務する担当課の人員配置（正規職員数と会計年度任用職員数）をお示しください。 また、物品の管理について伺います。	

(2) 拠点施設での各課の連携について	健康福祉部の健康づくり分野と教育部スポーツ振興課との連携事業はあるのか伺います。また、こども課と健康推進課との連携について伺います。子どもの予防接種・乳幼児健診・大人の特定健診など保健師の連携や役割分担など体制づくりは進んでいるのか伺います。専門職（保健師・栄養士）など人員は充足しているのか伺います。 また、供用開始後の連携で考えられる課題はないか伺います。	
質問事項3 指定管理者制度について	行政の効率化を図る目的で指定管理者制度が導入されているが、運営状況、課題及び今後の取組を伺います。	市長
(1) 小林市養護老人ホーム 慈敬園について	現在の運営状況と新年度のZEB化計画についての進捗状況を伺います。また、予算やその財源、委託業者の選定基準について伺います。今後、他の施設でもZEB化を検討している施設があるのか伺います。	
(2) すきむらんどについて	すきむらんどの運営状況について伺います。度々、かじかの湯が休止していますが、その管理体制や現状と課題について伺います。	

令和6年第6回小林市議会定例会（12月議会）一般質問通告書（通告者13名）

11月29日（金）

発言順番 8

押領司 剛 議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 令和7年度予算編成方針について	超高齢化社会が加速し社会保障費の増大などに直面するいわゆる「2025年問題」を迎える令和7年度の予算編成方針について伺う。	市長
（1）基本方針について	厳しい財政状況になると予想されるが、限られた財源の中で、市民のニーズに即した効率的かつ効果的な事業とは何か伺う。	
（2）予算編成について	令和7年度予算編成方針には、「事業の効果や優先度等を精査し、優先度の低いものはスクラップするなど、必要な見直しを行う。」とあるが、どのような見直しを行うのか。また、健幸都市プロジェクトには、どのように取り組むのか。物価上昇に賃金上昇がついてきていないが、その対策について伺う。併せて、一次産業への対策について伺う。	
（3）財源の確保について	新規事業をはじめ重要施策に対する財源確保についての考えを伺う。	
質問事項 2 子ども支援について	配慮や支援が必要な子どもへの環境整備について伺う。	市長 教育長
（1）インクルーシブ教育について	障がいのあるなしに関わらず全ての子どもたちが共に学習するインクルーシブ教育について、本市の取組状況と課題について伺う。	
（2）ヤングケアラーについて	ヤングケアラーの把握状況や支援方策について、また、孤立させない仕組みづくりの構築について伺う。	
（3）不登校について	県内で2,500人を越える児童・生徒が不登校であると報道があったが、本市ではコロナ禍以後増加していないのか現状を伺う。また、不登校に対する対策について伺う。	

令和6年第6回小林市議会定例会（12月議会）一般質問通告書（通告者13名）

12月2日（月）

発言順番 9

大迫 みどり

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 マイナ保険証について	政府は、マイナンバーカードと一体化した健康保険証を国民に持たせるため、12月2日から健康保険証の新規発行を停止する。 保険証の廃止は、医療現場に混乱をもたらし、国民皆保険制度を崩しかねない。マイナ保険証の問題点を明らかにし、市としての対応を伺う。	市長
（１）本市におけるマイナ保険証の利用状況と課題について	本市でのマイナンバーカード取得者とマイナ保険証の保持者及び利用者の状況を伺う。また、医療機関でのトラブルについて伺い、市としての課題分析と対応を伺う。	
（２）マイナ保険証を持たない人への対応について	マイナ保険証を持たない人に対する市としての今後の対応スケジュールはどうなるのか。短期証・資格証の人への対応はどうなるのか伺う。 マイナ保険証は作ったが利用できない方に対しては、どのように対応するのか。マイナ保険証がなくても資格確認書で現行の保険証と変わらず受診できることやマイナ保険証の解除ができることを周知徹底するべきと思うが、市としてどう対応するのか伺う。	
質問事項 2 高齢者福祉の充実について	高齢者の方々は、いつまでも住み慣れた地域で暮らし続けたいと願っている。その願いを実現させるためには、地域福祉活動の取組と介護保険制度の充実が重要であると考えている。高齢者が地域で暮らし続ける上での課題と解決策について伺う。	市長
（１）高齢者の生活実態について	高齢者の状況について、独居高齢者数、介護保険認定者及び利用者数、総合事業利用者数について伺う。 在宅介護を支えるために欠かせないのが訪問介護ヘルパーの果す役割である。訪問介護の報酬が下げられ、事業所は厳しい経営を余儀なくされ	

	ている。特に住宅が点在する地域での訪問介護は、移動時間・燃料代もかかり負担が大きい。市としてその状況を把握し解決策を考える必要があるのではないか。訪問介護施設からの相談はないものか伺う。在宅介護者の状況について、訪問介護利用者数と割合、老々介護の状況を伺う。
(2) 介護事業所の現状と課題について	高齢者の方が、地域で暮らすために欠かせないのが介護保険の利用である。デイサービス及び訪問介護の需要と供給の状況を伺う。 在宅介護ができなくなり、施設に入所させたいと願うとき、すぐに対応できるようにすることも市の役割であると考えている。特養及びその他の介護施設での待機者の状況を伺う。介護施設では、ヘルパー不足で利用者の受入れができないところもあると聞く。市内の介護施設の現状と市としての対策を伺う。

令和6年第6回小林市議会定例会（12月議会）一般質問通告書（通告者13名）

12月2日（月）

発言順番 10

原 勝信

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 少子化について	厚生労働省から「人口動態統計月報（令和6年6月分）」が公表されている。令和6年の上半期（1月～6月）の出生数は、前年同期比6.3%減の32万9,998人である。この傾向が続けば、令和6年の年間出生数は、過去最少の70万人を割り込むことが予測される。少子化に歯止めがかからない状況であり年金や医療といった社会保障制度の将来も大変心配になることから本市の状況について見解を問う。	市長 教育長
（１）子ども・子育て支援に関するアンケート調査の実施について	子育て家庭の的確なニーズの把握と課題を明らかにするため、児童・生徒・保護者と市内の子育て支援関連事業者を対象としたアンケート調査の実施について伺う。	
（２）小林市こども計画について	第2期小林市子ども・子育て支援事業計画（令和2年度～令和6年度）を策定し、令和4年度は令和5年度と令和6年度の取組に向けた計画の中間見直しを行っている。本市における教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の充実のほか、母子保健事業、特別な支援を必要とする子どもや子育て世帯への支援施策の展開等、これまでの取組を進めてきた第2期計画の考え方や次期計画の方向性について伺う。また、「第2次小林市総合計画」をはじめ、その他関連計画との整合性について伺う。	
（３）適正規模化について	児童・生徒の人数ではなく、子ども1人ひとりに学びの選択ができる学習環境、適正規模の考え方について伺う。	

質問事項 2 母子保健及び小児医療体制の充実について	健康に子どもを生み育てられるよう、また子どもが健やかに生まれ育つよう、妊娠中から出産・乳幼児期を通した育児相談や各種健診の充実、食育の推進などにより、子どもと親が心身ともに健康であるために必要な環境づくりについて伺う。 また、小児医療体制は安心して子どもを生み、健やかに育てることができる環境の基盤となるものであることから、小児医療の充実・確保の取組について伺う。	市長 教育長
(1) 小児救急患者の対応について	救急搬送される小児（新生児を除く）の状況並びに子どもの特性に合わせた小児専門の救急体制について伺う。小児は疾患の進行が早く、特有の身体的・心理的ケアも求められるため、専門知識を備えた医療体制について伺う。	
(2) 小児かかりつけ医について	病気の診療だけでなく発達相談や予防接種・健診などを通して医療機関が子育てをサポートするために「お子さまもかかりつけ医を持ちましょう」となっている。夜間・休日の「かかりつけ医」の対応について伺う。	
質問事項 3 第 81 回国民スポーツ大会と第 26 回全国障害者スポーツ大会について	令和 9 年（2027 年）第 81 回国民スポーツ大会と第 26 回全国障害者スポーツ大会の宮崎開催が決定した。施設整備・強化の対応について伺う。	市長 教育長
(1) ウェイトリフティング会場の対応について	大会会場となる文化会館並びに練習会場の補強整備について伺う。	
質問事項 4 健幸のまちづくりについて	健幸都市、小林の創造に向けた市民総ぐるみの取組について伺う。	市長 教育長
(1) 健幸アンバサダーの取組について	健康づくりや運動に無関心な人が健康づくりを始めるきっかけとして、身近な人からの口コミが有効である。健康に関する正しい知識や効果的な運動方法、上手な情報の伝え方を学び、家族や	

	友人などの大切な人に広める伝道師（アンバサダー）の取組状況について伺う。	
（２）健幸のまちづくりポスターコンクールについて	市内小・中学生を対象として実施した「令和６年度小林市健幸のまちづくりポスターコンクール」について伺う。また、児童・生徒に向けた今後の展開並びに健幸への取組について伺う。	

令和6年第6回小林市議会定例会（12月議会）一般質問通告書（通告者13名）

12月2日（月）

発言順番 11

松嶺 勇一

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 指定管理施設について	現在、指定管理者制度により管理されている施設が43か所あります。指定期間が3年または5年間で契約されており、令和7年3月で指定期間満了する施設が11か所あります。 指定管理者制度により管理する施設の計画や、管理者選定での課題について伺います。	市長
（１）社会情勢の変化に伴う指定管理について	指定管理期間が5年間で契約されている施設で、基本協定を令和2年4月1日以降に契約締結した指定管理施設においては、この間、今までになく社会情勢が大きく変化した期間でした。コロナ禍・国際情勢による資材不足・物価高騰・働き方改革・賃上げ・人手不足等により経済回復の兆しがなかなか見えてこないなか、指定管理者から業務の見直し依頼や相談は無かったのかを伺います。	
（２）野尻町総合交流ターミナル（ゆ～ぱるのじり）と野尻湖多目的広場（のじりこぴあ）について	令和3年7月1日より野尻町総合交流ターミナルの宿泊施設が休止になっていますが、新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、交流人口も増加傾向にあるなか、宿泊事業が再開されないことに市民から寂しさと再開の要望が多く聞かれるため、再開の考えはないか伺います。また、野尻湖多目的広場の駐車場を有料化する考えはないか伺います。	
（３）南海トラフ地震発生時の後方支援について	南海トラフ地震が発生した場合には避難者を受け入れる施設が重要になると思いますが、後方支援施設として宮崎市からの東の玄関口となる野尻湖多目的広場と野尻町総合交流ターミナルの両施設を利用した受入拠点としての活用ができないかを伺います。	

質問事項 2 地域公共交通について	1年前の一般質問では「令和6年度以降については、宮崎県地域公共交通計画を踏まえ、本市の地域公共交通計画に基づいて、公共交通の利便性の向上と維持確保を図る。」という趣旨の答弁でしたが、その後について伺います。	市長
(1) 小林市地域公共交通活性化協議会について	小林市地域公共交通活性化協議会が開催されていますが、どのような組織編成か伺います。	
(2) 福祉バス・コミュニティバスについて	福祉バスとコミュニティバスとの違いをどう考えているか伺います。また、北海道十勝バスの取組が参考になると思いますが、市の今後の取組について伺います。	
質問事項 3 国スポ・障スポでの小野湖整備について	小野湖で行われるボート競技において設置される仮施設を大会終了後も残し、小林市が管理する方向で検討すると9月18日に県が発表しました。それを受け、市の考えを伺います。	市長 教育長

令和6年第6回小林市議会定例会（12月議会）一般質問通告書（通告者13名）

12月2日（月）

発言順番 12

能勢 誠

議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項 1 小林市総合計画について	小林市総合計画は、市の将来ビジョンを実現するための重要な計画であり、その策定や見直しには市民や専門家の意見を取り入れることが不可欠です。現在、市は小林市総合計画等審議会を通じて外部評価を受け、答申を得ていると伺っていますが、具体的にどのような意見がどのように次期計画に反映されるかは、市民にとっても大変関心が高い事項です。そこで、この答申を次期計画にどのように取り入れるのか、反映のプロセスを明確にすることで、より市民の信頼を得られる計画づくりを促進するため、質問します。	市長
（１）総合計画の進捗管理について	総合計画においては、計画内容を定量的に評価し進捗管理を行うことが求められ、KPI（重要業績評価指標）の適正な設定が特に重要となります。しかし、KPI が適切でなければ、実態に即した評価ができず、計画の効果が不明確になる可能性があります。小林市では事務事業評価書の作成が行われているものの、KPI 設定に疑問があります。 効果的な計画管理を行うための職員研修が必要ではないかと考えています。適切な KPI 設定と効果的な評価手法を習得することで、総合計画の実効性を高めるための施策について質問します。	
（２）職員の意識改革について	総合計画の実施にあたっては、職員一人一人の業務改善意識が高まることが、計画全体の成功に寄与します。各職員が業務改善の意識を持ち、積極的に業務の質を向上させることが、市の運営の効率化と住民サービスの向上に繋がります。組織全体として改善意識の醸成を図るための取組が必要ではないかと考えます。他自治体の成功事例も参考にしつつ、市として一貫した改善意識の醸成を進めるために、具体的に実施していることや	

	改善すべき点について質問します。	
質問事項 2 学習障害（Learning Disabilities、LD）について	現代社会において、発達障害の一種である学習障害（Learning Disabilities、LD）への理解と支援体制の充実がますます重要となっています。特に、学習障害は一見して分かりにくく、早期発見と適切な支援がなされなければ、学習や生活、社会適応において困難を抱えやすい特性を持っています。 しかし、軽度のLDであればあるほど見過ごされがちであり、また、地域や支援機関ごとに支援の質や内容にばらつきがある現状が指摘されています。小林市においても、LDを持つ子どもや成人が適切な支援を受け、地域社会で活躍できる環境を整えることは喫緊の課題です。 特別支援教育の現場では一定の支援が提供されていますが、より一層の支援体制の充実や専門家の育成が必要です。また、学校を卒業した後の支援体制や、地域全体でのLDに対する理解向上も求められています。さらに、LDを持つ人々が社会で自立するためには、就労支援や成人期における継続的な支援が不可欠です。市としても、にしろ基幹相談支援センター等や地元企業との協力を通じて、LDに対する理解を深め、支援の幅を広げる取組が必要です。このような背景から、以下の点について市の現状や取組を伺うとともに、LDを持つ市民に対する支援体制の充実、そして市全体での理解促進に向けた施策を提案したく、質問します。	市長 教育長
（１）LDの早期発見の取り組みと診断プロセスに関する課題	LDの早期発見のために、学校や家庭での具体的な観察方法やチェック項目はどのように設定されていますか。また、担任教師と専門機関との連携はどのように進められていますか。LDの診断プロセスにおいて、特に軽度のLDを持つ子どもが診断を受けるまでに要する時間や、診断までに必要な医療機関の待機状況はどのような現状	

	にあるか伺います。また、これらの課題を解決するために、今後の改善策の検討状況について質問します。	
(2) LDの専門家育成や診断体制の充実について	市はLDの専門家育成について研修等を予定していますか。また、専門家の育成に向けた補助金や支援事業にはどのような予算の活用が考えられますか。特別支援教育においてLDを持つ児童・生徒に対するアセスメントシートの内容について具体的に教えてください。また、児童・生徒に配慮したリソースルームなどで実際に行われている指導方法や支援内容について、他の自治体の成功事例などを参考にしている部分があれば教えてください。	
(3) 学校以外での地域支援及び成人期におけるLD支援について	学校以外での地域支援の具体策について、例えば、地域での啓発イベントの種類や頻度、参加者の年齢層やターゲット層をどのように設定しているのか教えてください。また、ボランティアの役割や福祉機関との連携内容についても具体的にお聞かせください。成人期におけるLD支援の重要性について、にしもろ基幹相談支援センター等の協力のもとで今後どのような具体的支援を強化していく計画ですか。就職支援や職場適応に対する支援内容についても具体的にお答えください。	
質問事項3 小林市こども計画について	令和7年度から令和11年度までを計画期間とする「小林市こども計画」を策定中ですが、その進捗などについて伺います。	市長 教育長
(1) 計画策定の進捗について	この計画策定のスケジュールの進捗状況と小林市こども・子育て会議で協議された内容や委員から出た貴重なご意見などをどのように計画に反映させるのかを確認します。	

(2) こどもの権利教育の実施方法について	こどもの権利教育施策は、どのように進めますか。また、学校現場で円滑に実施するための教員向け研修や支援体制についても伺います。	
質問事項 4 積極財政について	市民から、「市に要望しても予算がない、お金がない。と言われる。」という声は少なくありません。また、「健幸のまちづくり拠点施設の建設よりも予算の使い道があるのでは。」との意見もあります。そのような声をどのように受け止め、今後の財政運営を見直す考えはないか、市長の意見を求めます。	市長

令和6年第6回小林市議会定例会（12月議会）一般質問通告書（通告者13名）

12月3日（火）

発言順番 13

堀 研二郎

議員

質問事項	質問要旨	質問の相手
質問事項 1 国スポ・障スポについて	2027年に宮崎県で開催が予定されている国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会で、本市においても6種目の競技が開催予定です。出場される選手が実力を存分に発揮できるよう、関係者や来場者を受け入れる体制整備に万全を期し、市民一体となったおもてなしができる環境を整えなければならないと感じます。 全国の来場者に小林市を好きになってもらうチャンスでもあります。開催までの道のりを質問し、市民と共有できるように伺います。	市長 教育長
（１）会場の設営、進捗について	競技会場の整備状況について、プレ大会、本大会に向け滞りなく進んでいるか伺います。	
（２）会場までの移動について	大会期間中は多くの来場者が想定されるが、その移動手段が確保されるのか、住民への影響を含め伺います。	
（３）来場者の受入体制について	多くの来場者を受け入れる体制について、特に食事、宿泊、お土産等、民間企業との連携について伺います。 また、ボランティアの確保について、特にスポーツ少年団等に所属している選手達に様々な経験をしてもらう機会の創出をする考えがあるか伺います。	
質問事項 2 本市の未来を担う人材の育成・確保について	経済産業省が示す「未来人材ビジョン」には、将来求められる人材のスキル等が示されています。人口減少に歯止めがきかない状況で、いかに人材を育成し、また確保していくか伺います。若い世代の人材だけではなく、キャリア教育や熱中小学校の取組のように市民総出で人材不足に対する人材育成について議論を交したいと考えます。	市長 教育長
質問事項 3 農業戦略について	農業従事者不足や農業所得の向上など長年変わらぬ課題と問題を解決する策を議論します。	市長

(1) 有効な支援策となっているか	農業を取り巻く状況は、気候変動、天候不順、生産経費の増加、人材不足、海外農産物との競合など10年前と比較してもますます厳しくなっており、経営体ごとの有効な支援が必要と思われますが、現状をどう分析しているのか伺います。	
--------------------------	---	--